

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00234

研究課題名(和文) 日本統治下の台湾における歌舞伎・浄瑠璃史の構築 現地資料に基づく基礎研究と考察

研究課題名(英文) The construction of history of Kabuki and Jyoruri in Taiwan under Japanese rule: Basic research and studies based on local documents

研究代表者

中尾 薫 (Nakao, Kaoru)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・准教授

研究者番号：30546247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本統治下台湾における歌舞伎・浄瑠璃の上演実態を把握し、これまで言及されていない歌舞伎・浄瑠璃史を構築することを目的とし、主に現地発行の新聞雑誌、特に『台湾日日新報』より、歌舞伎、浄瑠璃(義太夫)の上演日、演目、演者などを収集し分析した。結果として、少なくとも日本統治開始5年後の明治33年(1900)には浄瑠璃興行があったこと。日本人経営による劇場「台北座」「栄座」で契約していた歌舞伎は、いわゆる大歌舞伎の役者ではないこと。興行には料理屋組合や台北花柳界が関わっていたこと。明治30年代後半に旧劇から新演劇への興行への移行が顕著だったことなど、より具体的な実態を把握することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、断片的ではあるが日本統治下台湾における歌舞伎、浄瑠璃興行の実態を具体的に把握することが出来たことである。日本本土(内地)における興行、演劇状況との関係については今後の課題となるが、小芝居や新演劇について新しい具体例を示したことで、近代歌舞伎・浄瑠璃研究、演劇研究のみならず、最近の盛んになっているポストコロニアリズム研究において、新しい研究視座を提供することができたと思われる。社会的には、かつての歴史、文化現象への正確な把握をうながし、今後の異文化交流のありかたについての課題やひとつの指標を考えるきっかけとなる意義があるのではないだろうか。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to grasp the actual situation of Kabuki and Joruri performances in Taiwan under Japanese rule and to construct a history of those that hasn't been mentioned before. We are able to reach more specific facts, such as that the results that there were Joruri performances at least as early as 1900, that five years after the beginning of Japanese rule, that the Kabuki performances contracted to the Japanese-run theatres such as Taipei-za and Sakae-za were not the so-called 'Big-kabuki' actors, that the Association of Japanese Restaurants and the Hanamachi (Geisha District Community) in Taipei were involved for the box-office, that there was a marked shift from Kabuki to Shin-Engeki in the late 1890s.

研究分野：演劇学

キーワード：台湾 植民地 演劇 歌舞伎 浄瑠璃 義太夫 劇場 興行

1. 研究開始当初の背景

本研究は、明治 28 年 (1895) から昭和 20 年 (1945) の間、日本統治下にあった台湾における歌舞伎・浄瑠璃の上演実態を把握する目的で始まった。研究開始当初、日本統治下(以下、日治時代)台湾における文化活動、とりわけ演劇・芸能の分野に関する研究としては、(1)新劇・新派などの近代劇、(2)映画、(3)能楽・邦楽・茶の湯・いけ花等、素人の余暇芸能活動についての研究があったが、歌舞伎、および素人余暇活動ではない浄瑠璃興行に着目した研究は皆無に等しい状態であったと言ってよいだろう。

ただし、興行の場である劇場については、石婉舜、頼品蓉によるプロジェクト研究「台湾早期戲院普及研究(1895-1945)」が、日治時代の劇場の概要や場所をデジタルマッピングした「台湾老戲院文史地図 1895-1945」(<http://map.net.tw/theater/>)を紹介するなど、台湾の研究者による成果があり、すでに本研究の基盤はある程度整っている状態だった。

2. 研究の目的

本研究は、明治 28 年 (1895) から昭和 20 年 (1945) 日本統治下にあった台湾において、歌舞伎・浄瑠璃がどの程度行われ、どのような演者・演目・公演形式で行われていたのか、まずは状況を把握することを目標とした。日治時代の台湾において、歌舞伎、浄瑠璃の興行があったことは、日本演劇史はもちろん歌舞伎史、浄瑠璃史、台湾演劇史のなかでも言及されることはほぼなかった。これまで日本演劇史で主流に語られてきたのは、東京を中心とした、いわゆる大歌舞伎や、文楽系の人形浄瑠璃芝居などであったが、近年はより小規模ながら膨大な数の興行がなされていた小芝居や、素浄瑠璃の隆盛などにも研究の目が向けられるようになってきている。本研究はその線上に位置づけられると予測されているが、植民地と言う場についてはこれまで十分な目配りがされておらず、本研究はその空白を埋めることが目的であった。また植民地における文化活動という点においては、近年、満州、朝鮮などの芸能についての研究も盛んであり、台湾も同様である。しかし、その対象は後世の影響が強い新劇・新派などの近代劇、あるいは映画、能楽・邦楽・茶の湯・いけ花等、素人の余暇芸能活動についての研究と考察がほとんどであった。これらの成果に、歌舞伎・浄瑠璃の興行を如何に位置付けるかも本研究の目的のひとつであった。

3. 研究の方法

本研究では、『台湾日日新報』等現地発行の新聞雑誌の記事を主な情報収集源として使用した。特に『台湾日日新報』は、日本統治下台湾で、明治 31 年 (1898) 5 月 1 日から昭和 19 年 (1944) 3 月 31 日まで発行されていた新聞で、発行年月の長さもさることながら、演劇興行に関してはほぼ毎日、公演情報が掲載されているため、中心的に使用した。具体的には、記事から、演者・演目・公演場所、公演日時などの基礎情報を蓄積することから始めた。

当初は、国立台湾図書館の端末を利用し、歌舞伎、浄瑠璃、義太夫、演劇等キーワードによる記事検索によってヒットする記事を収集した。記事の収集・整理と並行して考察の対象とすべき事象の選定も行った。研究メンバーは歌舞伎を専門とする日置貴之（分担者）、能狂言を専門とする王冬蘭（分担者）が当初は歌仔戲との接点と劇場の成立史について、浄瑠璃を専門とする川上俊文（研究協力者）が義太夫、浄瑠璃の情報を収集分析にあたり、中尾薫（代表者）は全体の総括を担当した。また、日治時代台湾の演劇・芸能に関する研究を進行しているほかの研究者をお招きし、研究討議会を催すことによって、多義的な研究視点が確保できるように務めた。

4．研究成果

本研究期間全体を通して、（1）日本統治が始まったわずか5年後の明治33年（1900）には「十字館」にて浄瑠璃興行があったこと。（2）日本人経営による劇場「台北座」「栄座」は歌舞伎役者と契約し、多くの役者はいわゆる大歌舞伎の役者ではないこと（日置貴之「明治三十六年「台北役者評判記」(一)(二)」）。（3）大正2年に台湾巡業中に客死した三世竹本隅太夫の興行には料理屋組合や台北花柳界が関わっていたこと（シンポジウム「日本統治下台湾の能・歌舞伎・浄瑠璃興行をひもとく」(民族芸術学会第159回研究例会、2021年3月14日での川上俊文の口頭報告)）。（4）明治30年代後半に旧劇から新演劇への興行への以降が顕著になり、本地人向けの演劇興行が一時人気となったが、当初は政治的な意図とはあまり連関がなかった可能性があることなど断片的であるが、より具体的な実態を把握することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 日置貴之	4. 巻 557号
2. 論文標題 明治三十六年「台湾役者評判記」(一)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学教養論集	6. 最初と最後の頁 59-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日置貴之	4. 巻 560号
2. 論文標題 明治三十六年「台湾役者評判記」(二)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学教養論集	6. 最初と最後の頁 223-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 王冬蘭	4. 巻 第34期
2. 論文標題 日治時期台北大村武能舞台研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 戯劇学刊(国立台北藝術大学戯劇学院)	6. 最初と最後の頁 35 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 王冬蘭	4. 巻 227
2. 論文標題 日本統治下台湾における能舞台	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 芸能史研究	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾薫	4. 巻 63
2. 論文標題 日本統治下台湾における新演劇興行の実態 明治三十八年台南座蜻蛉会の芝居番付より	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 149-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/91250	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 王冬蘭
2. 発表標題 「戦前、台湾における能楽」
3. 学会等名 藝能史研究会2020年10月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 王冬蘭
2. 発表標題 「日本統治下台湾における能楽」
3. 学会等名 民族藝術学会第159回研究例会「日本統治下台湾の能・歌舞伎・浄瑠璃興行をひもとく」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日置貴之
2. 発表標題 「日本統治時代初期台湾の歌舞伎役者たち」
3. 学会等名 民族藝術学会第159回研究例会「日本統治下台湾の能・歌舞伎・浄瑠璃興行をひもとく」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日置貴之
2. 発表標題 「「臺北役者評判記」と日本統治下台湾の歌舞伎の観客」
3. 学会等名 日本演劇学会秋の大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾薫
2. 発表標題 「趣旨説明：日本統治下台湾における演劇興行の研究と課題」
3. 学会等名 民族藝術学会第159回研究例会「日本統治下台湾の能・歌舞伎・浄瑠璃興行をひもとく」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川下俊文
2. 発表標題 「日本統治下台湾の浄瑠璃巡業と素人浄瑠璃」
3. 学会等名 民族藝術学会第159回研究例会「日本統治下台湾の能・歌舞伎・浄瑠璃興行をひもとく」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 王冬蘭
2. 発表標題 台湾歌仔劇における日本演劇の影響（台湾歌仔劇中の日本戲劇因素）
3. 学会等名 2019年獅城國際戲曲學術檢討會（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日置貴之
2. 発表標題 明治～大正期の演劇 / 演芸と近代小説の編成 - メディア間の相互交渉とアダプテーションの視点から
3. 学会等名 日本近代文学会2019年秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 王冬蘭
2. 発表標題 日本統治下台湾における能舞台
3. 学会等名 第55回藝能史研究会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾薫
2. 発表標題 日本統治下台湾における演劇興行 高松豊次郎参入以前の劇場における新演劇興行の動向を中心に
3. 学会等名 日本植民地研究会2022年度秋季研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>2021年6月19日オンライン国際研究会にて岩澤侑生子（台湾・淡江大学日本語文学学科収支課程）「日本統治期台湾演劇をめぐる」講演会を実施。 2021年8月31日オンライン国際研究会にて園田郁「日本統治下の台湾における大衆演芸の興行」講演会を実施。 2021年9月17日オンライン国際研究会にて李思漢「日本統治下台湾における義太夫節について」を実施。 2021年11月4日オンライン国際研究会にて川下俊文「上山草山・近代劇協会の大正3年台湾巡業をめぐる」講演会を実施。</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	日置 貴之 (Hioki Takayuki) (70733327)	明治大学・情報コミュニケーション学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	王 冬蘭 (Ou Toran) (80319920)	帝塚山大学・経済経営学部・客員研究員 (34601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	川下 俊文 (Kawashita Thoshifumi)	日本大学・非常勤講師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関